

コミゾソバ *Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。湿地性の植物で、東海地方は主産地であるが、それでも生育地は少ない。

【形態】

1年生草本。主軸は長さ 15～80cm、基部はあまり倒伏せず、閉鎖花序枝を出さない。葉は 1～3.5cm の柄があり、葉身は長さ 3～7cm、幅 2～5cm、先端は突出して鈍端、基部は浅い心形、頂裂片は卵状五角形で基部ははつきりくびれ、側裂片は葉長の割に大きくてほとんど円頭になる。花期は 8～9 月、花序は小さく、少数の花をつける。花序群も少数（しばしば 1 個のみ）の花序からなる。がくは長さ 3～4mm、帯紅色または緑白色、そう果は淡褐色でやや光沢があり、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具（芹沢 86199, 2010-9-19）、11 作手（芹沢 91451, 2016-9-3）。西：5 稲武（芹沢 84940, 2009-9-19）、21 下山（芹沢 85058, 2009-9-24）、28 額田（芹沢 83614, 2008-10-17）、29 岡崎北部（芹沢 85064, 2009-9-24）、30 岡崎南部（芹沢 80097, 2005-8-7, 正基準標本）。尾：37a 瀬戸（芹沢 82038, 2007-8-16）、45 犬山（芹沢 82644, 2007-10-11）、51 名古屋南東部（芹沢 95855, 2019-9-21）。50 名古屋北部（千種村, 天野景従 s.n., 1910-10-23, MAK）で採集された標本もある。正基準標本は花が帯紅色だが、他の大部分は花が緑白色の型（ミドリコミゾソバ）である。

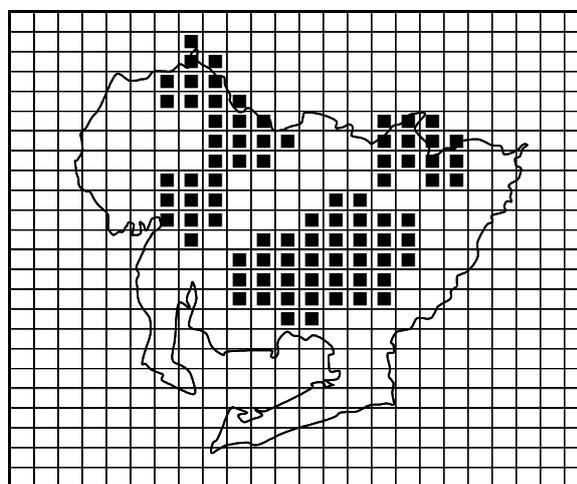
【国内の分布】

本州（福島県～兵庫県）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の、やや貧栄養の、しかし極度に貧栄養ではない湿地の、林縁や林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

下山の一部と岡崎南部（池金町）の北山湿地には比較的多いが、他はどこも小群落である。一部の場所では森林化が進行して湿地が暗くなり、衰退している。

【保全上の留意点】

ある程度は被陰に耐えられる植物であるが、それでもあまり暗くなると生育できない。湿地周辺の樹木を伐採して光条件を確保する必要がある。本種に限れば適度の攪乱はむしろ好都合であるから、作業に際し過度に神経質になる必要はない。

【特記事項】

2008年に新種として記載された植物で（花井・芹沢 2008）、基準標本産地は岡崎南部の北山湿地である。

【引用文献】

花井隆晃・芹沢俊介. 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1: 3-26.

【関連文献】

平新版 4 p.93.